

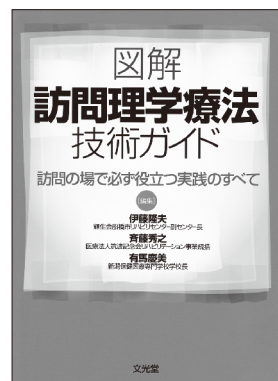
書評

伊藤隆夫・斉藤秀之・有馬慶美(編集)

図解訪問理学療法技術ガイド 訪問の場で必ず役立つ実践のすべて

評者 友清直樹

(医療法人社団涓泉会山王リハビリクリニック 渉外・システム部部长)



今日、高齢社会の進展に伴い、救命や治療を中心とする病院完結型の医療から、地域や自宅で生活を支える、障がいや疾病を抱えて生きる、看取るなどの地域完結型の在宅医療の充実が求められている。

社会保障制度改革国民会議報告書では、高齢者を地域で確実に支えていくためには訪問リハビリテーションなどの在宅医療が不可欠としており、訪問理学療法の普及が急務といえる。さらに、訪問理学療法を確立させていくことは今後の理学療法士の職域を拡げる意味からも重要とされる。

待望の訪問理学療法の実践書として『図解訪問理学療法技術ガイド』が文光堂より刊行された。

文光堂といえば「図解理学療法技術ガイド」など学生や理学療法士に長年愛読されている医学書を数多く出版している伝統ある出版社であり、本書においてもその伝統が受け継がれている。今後の訪問理学療法の実技書として中心基軸となる書籍といえる。

本書の内容は、訪問理学療法における実践的な技術を中心に、訪問理学療法を幅広く網羅してA5判のハンディサイズにまとめた技術ガイドとなっている。特に「標準的で安全な訪問理学療法」の提供を目的に企画されており、訪問理学療法に求められるさまざまな要素をバランスよく網羅している。

全7部29章143節で構成されており、1部では訪問理学療法の「基礎知識と技能」として訪問理学療法における基本態度から具体的な準備および事務的業務が解説されている。2部では安全に理学療法が提供できるように「リスク管理と訪問理学療法の周辺技能」として、リスクマネジメントや緊急時の対応などが解説されている。3部では在宅環境における理学療法評価ならびにアセスメント、4～6部においては「身体機能」「活動と参加」「環境」に分けて理学療法アプローチが提示されている。7部では「疾患別訪問理学療法の実践」として疾患特性に応じた訪問理学療法の介入方法などわかりやすく丁寧に解説されている。図表が多用されており、視覚的にも理解しやすく構成されている。実際に利用されている評価表やフローチャートが多く掲載されているのも実用的である。

本書は、訪問の場で必ず役立つ実践のすべてを網羅し、臨床場面で直面する課題に対して自信を持って対処できるようになるための参考書籍である。多いに活用できる書籍として自信を持ってお勧めする。

● A5判, 944頁, 2色刷
定価: 本体 9,500円+税
文光堂刊, 2014年